

# 北見市における景気動向調査報告書

< 第 II 四半期 >

北見商工会議所

## I. 調査要領

### 1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 平成30年10月15日

(2) 調査対象期間 平成30年7月～9月期実績および平成30年10月～12月期見通しについて調査した。

### 2. 調査対象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を往復ハガキにより調査した。

### 3. 回収状況

業種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回答率
製造業	30社	18社	60.0%
建設業	30社	23社	76.7%
卸売業	30社	24社	80.0%
小売業	35社	23社	65.7%
サービス業	25社	18社	72.0%
合計	150社	106社	70.7%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

## II . 概 況

### 《 全 体 の 動 き 》

平成30年度第II四半期<7月～9月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」15.1%、「悪化企業」36.8%、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△21.7となっており、前年同期比(△8.5)との比較では13.2ポイントの悪化傾向を示しました。また、前期調査<30年度第I四半期>と比較してみると前回△22.8→今回△21.7と1.1ポイント好転を示しています。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値△5.5、建設業D・I値△8.7、卸売業D・I値△41.7、小売業D・I値△26.1、サービス業D・I値△22.2となっており、前年同期調査と比較すると、製造業で24.5、サービス業1.4ポイント好転した一方、卸売業で58.3、建設業13.2、小売業7.9ポイントの悪化傾向となりました。

特に卸売業については前年同期と比べ58.3ポイントの大幅な悪化を示し、D・I値がプラスからマイナスに大きく転じる結果となり、一転厳しい状況となっています。

来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」15.1%、「悪化企業」41.5%でD・I値△26.4と、前年同期見通し(△20.9)に比べ5.5ポイントの悪化となり、厳しさが増す状況にある来期見通しとなっています。

### 《 業 種 別 の 動 き 》

#### 1) 製 造 業

##### 生 産 高

前年比で「増加企業」27.8%、「減少企業」33.3%、D・I値△5.5と前年同期に比べ9.5ポイントの好転となりました。

##### 採 算

前年比で「好転企業」16.7%、「悪化企業」38.9%、D・I値△22.2と前年同期に比べ2.8ポイントの好転となりました。

##### 来期見通し

業況D・I値△16.7、生産高D・I値△16.6、資金繰りD・I値△16.6と、前年同期に比べ業況・生産高のD・I値で好転を示しました。

#### 2) 建 設 業

##### 完 成 工 事 高

前年比で「増加企業」21.7%、「減少企業」43.5%、D・I値△21.8と、前年同期に比べ49.1ポイントの大幅な悪化となりました。

##### 採 算

前年比で「好転企業」26.1%、「悪化企業」34.8%、D・I値△8.7と、前年同期に比べて4.2ポイントの悪化を示しました。

##### 来期見通し

業況D・I値△21.8、完成工事高D・I値△21.8、資金繰りD・I値△8.7と前年同期と比べて全てで悪化傾向を示しました。

### 3) 卸売業

#### 売上高

前年比で「増加企業」4.2%、「減少企業」54.2%、D・I値△50.0と前年同期と比べ62.5ポイントの大幅な悪化を示し、プラスからマイナスに転じる結果となりました。

#### 採算

前年比で「好転企業」0.0%、「悪化企業」41.7%、D・I値△41.7と前年同期に比べ29.2ポイントの悪化を示しました。

#### 来期見通し

業況D・I値△33.4、売上高D・I値△41.6、資金繰りD・I値△20.8と前年同期に比べすべてのD・I値で悪化を示す結果となりました。

### 4) 小売業

#### 売上高

前年比で「増加企業」17.4%「減少企業」39.1%、D・I値△21.7と前年同期に比べ1.1ポイントと若干の好転傾向を示しました。

#### 採算

前年比で「好転企業」8.7%「悪化企業」47.8%、D・I値△39.1と前年同期から30.0ポイントの大幅な悪化傾向を示しました。

#### 来期見通し

業況D・I値△30.4、売上高D・I値△30.4、資金繰りD・I値△17.4と前年同期と比べ全てのD・I値で悪化傾向を示しました。

### 5) サービス業

#### 売上高

前年比で「増加企業」11.1%、「減少企業」38.9%、D・I値△27.8と、前年同期に比べ1.7ポイントと若干の好転を示しました。

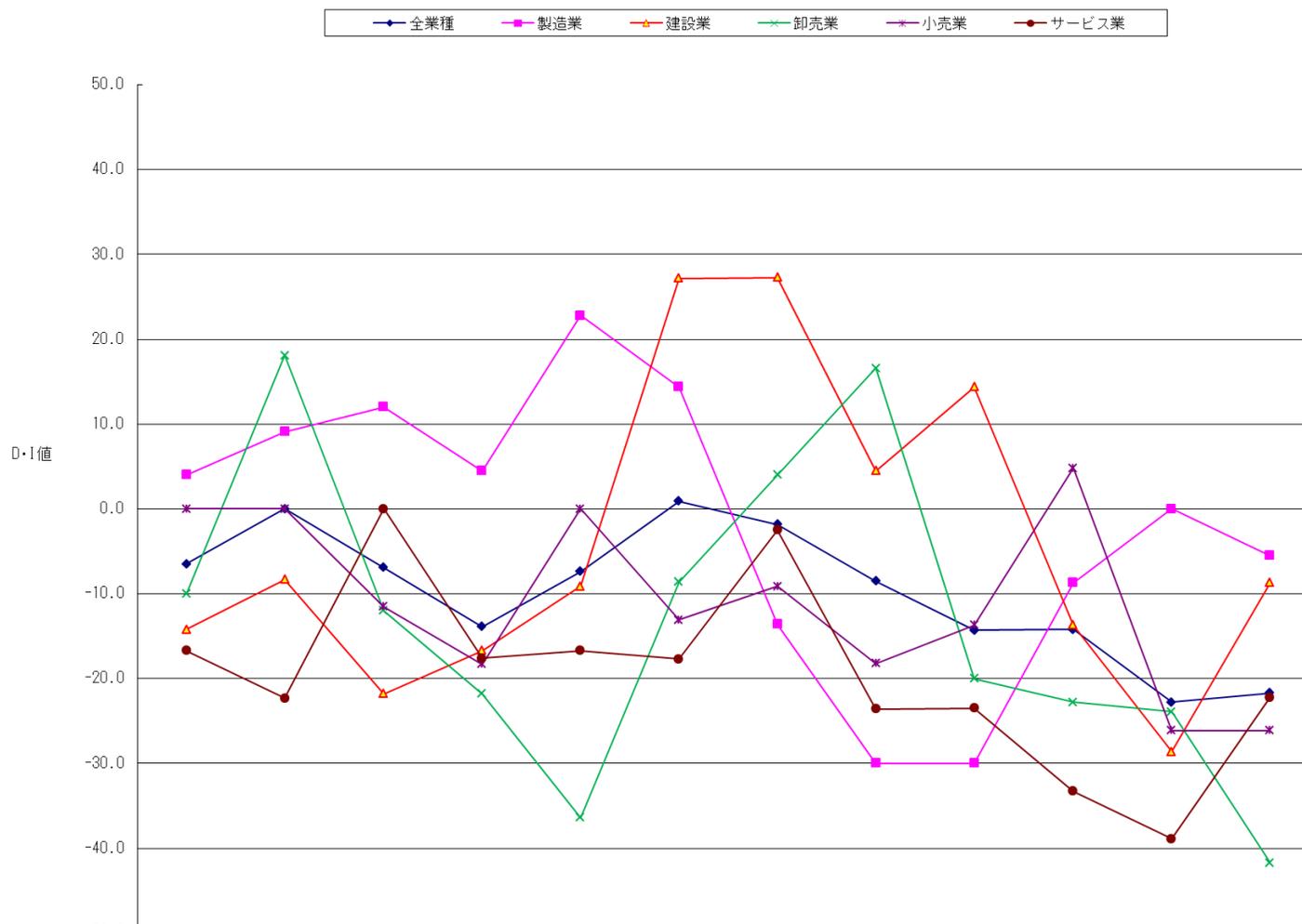
#### 採算

前年比で「好転企業」22.2%、「悪化企業」33.3%、D・I値△11.1と前年同期に比べ、12.4ポイントの好転を示しました。

#### 来期見通し

業況D・I値△27.7、売上高D・I値△33.3、資金繰りD・I値0と前年同期に比べ業況以外のD・I値で好転傾向を示しました。

### 各年度調査期における業況（前年同期比）のD・I値の比較



	27.10~12 27年度Ⅲ	28.1~3 27年度Ⅳ	28.4~6 28年度Ⅰ	28.7~9 28年度Ⅱ	28.10~12 28年度Ⅲ	29.1~3 28年度Ⅳ	29.4~6 29年度Ⅰ	29.7~9 29年度Ⅱ	29.10~12 29年度Ⅲ	30.1~3 29年度Ⅳ	30.4~6 30年度Ⅰ	30.7~9 30年度Ⅱ
◆ 全業種	-6.5	0.0	-6.9	-13.9	-7.4	0.9	-1.8	-8.5	-14.3	-14.2	-22.8	-21.7
■ 製造業	4.0	9.1	12.0	4.5	22.8	14.4	-13.6	-30.0	-30.0	-8.7	0.0	-5.5
▲ 建設業	-14.2	-8.3	-21.8	-16.7	-9.1	27.2	27.3	4.5	14.4	-13.7	-28.6	-8.7
× 卸売業	-10.0	18.1	-12.0	-21.8	-36.4	-8.6	4.0	16.6	-20.0	-22.8	-23.9	-41.7
✱ 小売業	0.0	0.0	-11.5	-18.3	0.0	-13.1	-9.1	-18.2	-13.7	4.8	-26.1	-26.1
● サービス業	-16.7	-22.3	0.0	-17.6	-16.7	-17.7	-2.5	-23.6	-23.5	-33.3	-38.9	-22.2

各年度調査期

## 業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増	得 意 先 減 少	同 業 者 間 の 競 合
建 設 業	人 材 不 足	諸 経 費 増	人 件 費 増	同 業 者 間 の 競 合	得 意 先 減 少
卸 売 業	諸 経 費 増	人 材 不 足	得 意 先 減 少	同 業 者 間 の 競 合	人 件 費 増
小 売 業	諸 経 費 増	同 業 者 間 の 競 合	得 意 先 減 少	人 材 不 足	人 件 費 増
サ ー ビ ス 業	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増	同 業 者 間 の 競 合	得 意 先 減 少
合 計	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増	同 業 者 間 の 競 合	得 意 先 減 少

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

全業種で見ると、前回調査の4位「得意先減少」と5位「同業者間の競合」が入れ替わり、「同業者間の競合」が4位となった。3位以上に変動は無かった。

業種別では、建設業以外のすべての業種で「諸経費増」が1位になっており、前回調査と同様に「諸経費増」と「人材不足」が深刻な問題となっている。

前回調査同様に、原油高の影響などによるコストアップが伺われる「諸経費増」がほぼすべての業種で課題として挙げられている。

### ※その他及び具体的な業界の問題点の記載事項

(製造) ○人手不足

(建設) ○職人不足

(卸売) ○運賃の値上がり  
○人員の確保と人材育成

## 業 況

### ※太字アンダーラインは複数企業が回答

製造業 ⇒ 好転（生麺類、木製建具、農業機械金属用製品、一般機械、建設用金属製品）  
悪化（農産物加工製造、ビール製造、松製材、印刷、石灰製品）

- 建設業 ⇒ 好転（内線工事、冷暖房設備）  
悪化（電気）
- 卸売業 ⇒ 好転（なし）  
悪化（鉄鋼、食品、米穀、製菓原材料機器、化粧品、建築資材・家具、自動車部品、建築金物）
- 小売業 ⇒ 好転（農業機器、家具）  
悪化（衣服、酒、時計、ゴルフ用品、火薬・鉄砲、灯油・プロパン）
- サービス業 ⇒ 好転（美容）  
悪化（ホテル、飲食、清掃、理容）